

秋田県における「食品産業 産学官連携活動」参画の概要

－「秋田の食産業の未来から豊かな『地方』を考える」－

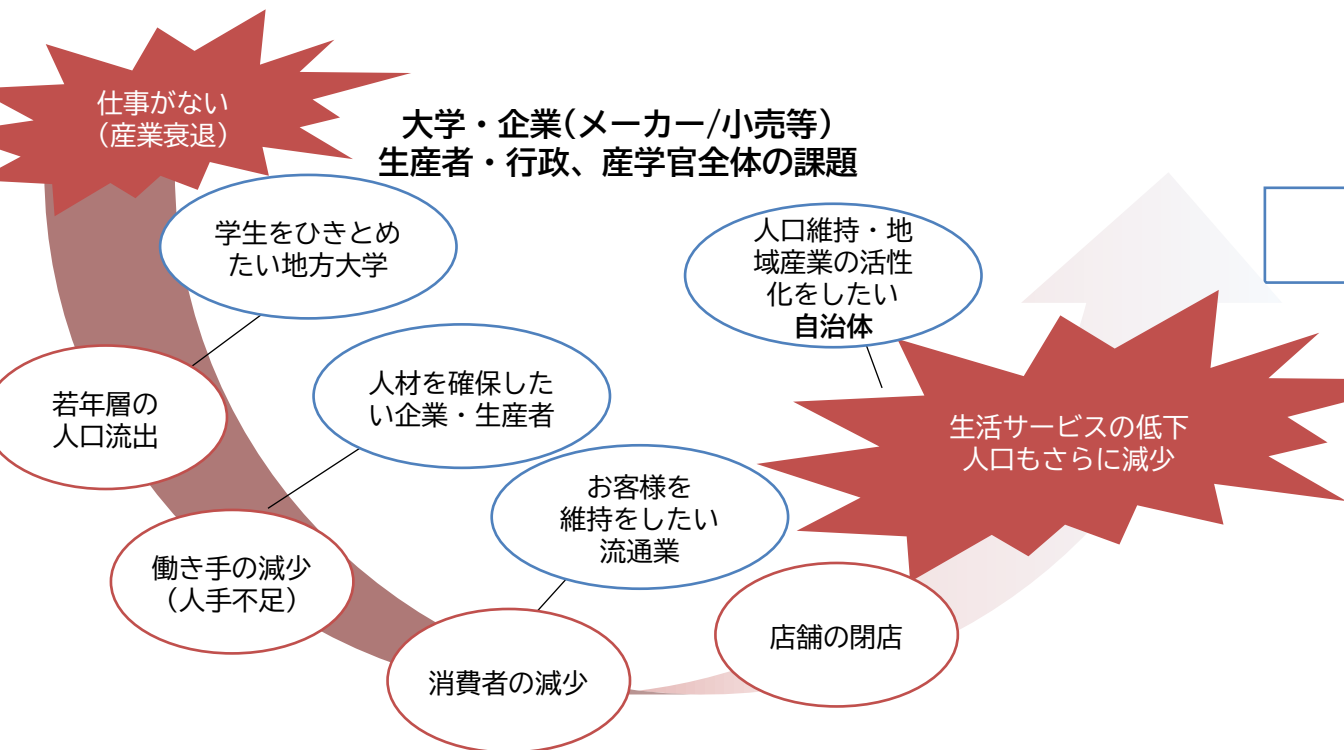
2026年7月24日

秋田県立大学 生物資源科学部

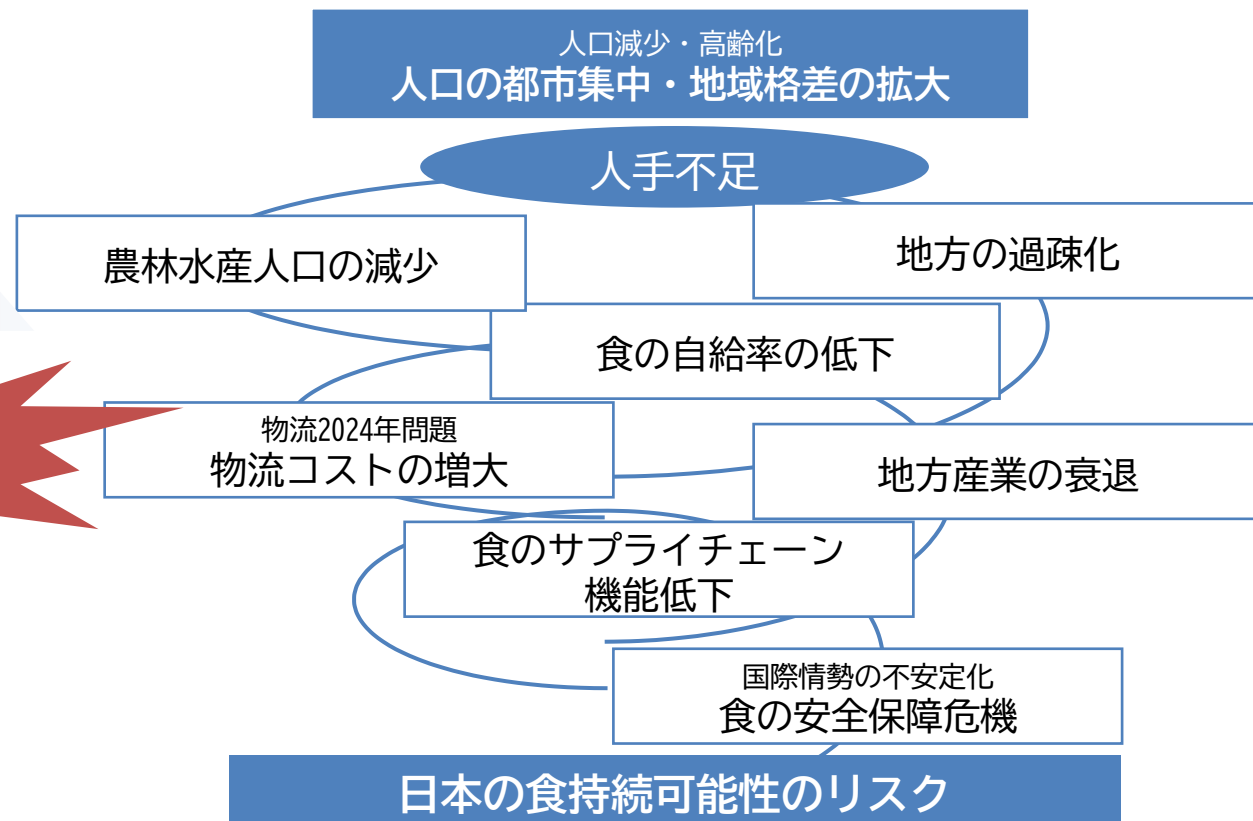
三菱食品（株）東北支社 / 経営企画本部 戦略研究所

- 秋田県をはじめとする地方では、仕事の不足を起点として若年人口の流出が進み、人手不足、産業の衰退、生活サービスの低下を招き、さらなる人口減少につながる負の循環が生じています。こうした状況については、地域の大学、企業、生産者、行政など、産学官に関わる多くの関係者が共通の課題意識を有しているものと考えます。
- 秋田県立大学は、地域に根差した研究・教育を展開し、スマート農業の推進や地域課題の解決に貢献する実践的な専門人材の育成に取り組んできました。今後の県内産業の発展に向けては、農業に加え、加工、物流、販売を含む流通全体を横断的に捉える視点を持つ人材育成が重要であると考え、学生のみならず、ビジネスパーソンへのリスキリングにも、今後、取り組んでいきたいと考えています。
- また、全国で事業を展開する三菱食品にとっても、地方で加速する人口減少や産地、地域産業の衰退は、日本の食の持続可能性に関わる重要な課題という危機意識を持っています。

地方が抱える構造的課題



地方課題は実は日本の食の課題



- 秋田県は国内有数の農林水産物生産地である一方、食品産業としての付加価値は必ずしも十分とは言えません。その要因は、首都圏をはじめとする大都市部との距離や就業人口の減少といった構造的課題に加え、加工、物流、販売といった流通・マーケティングが十分に発揮されていないという課題もあります。
- 本プロジェクトでは、こうした状況を踏まえ、秋田県をフィールドに、学生・市民も含めた多様な参加者により、食品産業を通じた地域課題への対応を考えます。
- そのため、業種・立場・地域を問わず、本趣旨に共感いただけるステークホルダーの皆様に、本活動への参画をお願いしたいと考えています。
- 初年度である2026年度は全4回の公開講座として開催いたします。

「秋田の食産業の未来から豊かな『地方』を考える」と題した寄付講座を開設

産学官・学生・市民が集まり、みんなで知恵を出し合って
食産業を通じて地域課題への対応を考える

